第17回サバニ帆漕レースを顧みて…意見交換会の議事録（要約）

2016年11月28日（月）19：00～21：00　於：那覇商工会議所　2階ホール

実行委員会：座間味村役場産業振興課　課長；中村 悟、三田 勇樹（進行）、

座間味村観光協会 齋藤 慎也、漆畑 薫、塩澤 朋子（東京広報：フォトウエーブ）（敬称略）

参加チーム；23チーム、28名

司会進行：座間味村役場産業振興課　三田 勇樹

意見交換会の式次第に則って進行

開会の挨拶；座間味村役場産業振興課長　中村 悟

＊「今回6月26日に開催されました第17回サバニ帆漕レースにおいて39艇が参加し無事終了しました。反省点もあると思いますので、今回の反省を踏まえ次年度第18回大会に備えたいと思います。

皆様の意見は次年度以降、有意義な大会運営が出来るよう活用いたします。」

予め提議されている議題から

**１）運搬時の事故について**

第17回のレース終了後、参加チームのサバニ艇を運搬時、運送業者が誤って落としてしまい破損させてしまったという事故が起こりましたが、艇長と運送会社の方で話し合ってもらい解決したと伺っております。

　実行委員会としてはレース開催時、レース期間中は人に対しての保険は加入していますが、サバニ運搬は業者に委託しておりますので、運搬時の事故に関しては、あくまで運送業者の責任の範囲であるという認識でおります。

サバニ艇に対しても、保険を掛けることを検討いたしましたが、限度額の問題、艇による掛け金等も変わり、対応が難しいことから、個々に運送業者ときっちり話し合いをした上で運送して頂く事が大切との結論に至りました。

**２）第18回サバニ帆漕レースの開催日について**

平成29年7月1日（土）にマリリンカップ、7月2日（日）に本レースを開催させていただきます。

例年開催日の目安は、梅雨明け予定日から10日前後内の週末で（出来れば6月中）潮の大きくない日が目標です。

残念ながら、2017年の6月最終週の週末は大潮となっており、サバニ帆漕レースにはどうしても危険が伴うということで安全第一という観点から座間味村長を含め実行委員会が判断させて頂きました。

●参加者より、7月初めとはいえ、7月に入るとハイシーズンとなり、週末の高速艇など船舶の予約が取りにくく、それによってレースに出られなくなる者も出てしまう。そこで、船のいくつかの席を選手のために実行委員会側で予約して、優先的に載せて頂きたいとの意見が出ました。

**●船舶の座席確保**

⇒実行委員会で７月１日の高速船クイーンざまみ１便を４０席確保致しました。一般のお客様もいることからこれ以上の確保は厳しいと判断いたしましたのでご了承ください。

なお、この枠はマリリンカップに参加される方限定とさせて頂きます。予約は通常通り那覇事務所にて２ヶ月前から行い、「サバニ帆漕レース参加者」との旨をお伝え下さい。座席が定数に達した時点で受付終了となりますので重ねてお願い申し上げます。

※４０席しか枠がない為、参加される皆様にも出来る限り一般枠で予約を取っていただきますようご協力をお願い申し上げます。

例：座席が残り３席の場合は５席希望の場合でも３席しか確保出来ません。ご了承下さいませ。

●**レース前説明会**

参加者よりレース前説明会を2か月前ではなくもっと早い時期にできないか、との意見がありました。

座間味村、実行委員らで話し合いましたが、年度末にあたり4月前開催は、やはりかなり厳しい状況です。したがって、4月のなるべく早い時期に行うようにしたいと思います。

**2017年4月14日（金）19：00～　　那覇商工会議所　2階ホール**

**３）ルールに関して**

毎年のことではありますが、今回もルールに抵触するのではと思われる事例がかなり目立ちました。

意見交換会、説明会、艇長会議などで何度となく話し合われ、お願いもしてきたことですが。

なかなか浸透していない状況が続きます。

参加者全員にとって公平でなくてはならず、スポーツとしての戦いになりません。

したがって、来年はより一層、ルールをしっかりと管理していきたいと思います。

例として、

**●ルールブックの改定**

毎回同じ議題となる以下の問題について、検討、改訂していきたいと思います。

（できれば、次回の説明会のときには配布できるようにしたいと思いますが、現在検討中です）

　●**インスペクションについて**

今まで紳士協定の中で、きちんと誓約書を出して頂いているにも関わらず、ルール的にどうなのかという艇がまだあります。それは、後から写真や映像などの記録されたもので判ってきます。

そこで、従来のレース前のインスペクションに加えて、抜き打ち的にフィニッシュ後にも、行うことを検討しています。

両クラスのトップ3艇ないしは5艇を対象に、また実行委員会で指名した艇に対して行いたいと思います。チェックポイントはセール面積・付属品・艤装品など、実行委員会のインスペクターによって行いたいと検討しています。

●**セールの材質**：現行のルールブックには木綿又はダクロンでなければならない。とあるが、ヨットに使われているスピネーカーの生地も、ポリエステル繊維（ダクロン・テトロン）であれば許容範囲。

今のところ、帆の生地の厚さは指定していないが、薄い生地で作ってきたチームがいました。

戦後パラシュートの生地で作っているサバニ艇の帆があったので、ダクロンで作ることを許可しています。ダクロンやテトロンは商品名で、ポリエステル繊維であればOKです。

ただし近代的なダイニーマやカーボンなどのような、フィルムはやめてください。

ティンナワなどは規定していないのですが、今後出てくる可能性がありますので、検討します。

材質に関しては、上記のように改定の必要あります。

●**帆の面積・制限エリア**：2枚の合計サイズ、縦5m・横3.5m以内とする。全周17メートル以内であればよしとすればよいのではないか。

参加者から、大きければ走るという訳でもなく、フウザンも竹を使っていれば、どうしても限界が出てくる。サバニクラスでは大きい帆を使うことも技量だと思うので、帆の面積は自由にしたらどうか。

各々チームに任せたらどうか、との意見が出ました。

一方、別の参加者から、大きい帆にしていったら、ヨットに近くなってしまった。周りもどんどん大きくなっていいき、世界が変わってきてしまった。ある程度の制限が必要だと思うとの意見も出ました。エークの形状なども同様のことがいえる。カヌーやカヤックなどのパドルのような形状はサバニのエークの形状から遠のく。

美しいサバニであってほしいと思うのと、ある程度の規定の中で戦うのがスポーツたる所以ではないかという観点から、規定は必要だと考えます。

●**帆の文字と色**： チーム名はいいのですが、商業的なものは載せないで下さい

（ルールブックに明記あり。）

　●**ヤホ**：風ザンはあった方がいいか、なくてもよいのか。

●**エーク**：パドルの面積・寸法：基準を設ける必要があるのかどうかという疑問。

材質、ルールブック上は古くからあるエークと著しく形状が変わってはいけないというルールがあります。サバニはサバニのエークに則りましょう。

　単板がいいのか、単板で無くてもいいのか⇒　関係ない。との意見もあり。

　●**帆桟の材質**：帆桟は竹でないといけないという規定がある。

形状は袋状のものに縫いつけたり、帆に竹を挟んだり、ヨットのバテンのように竹を曲げて袋状のところに入れたりとヨットと変わらない形状は好ましくない。

竹製の帆の桟（帆桟）を原則としておきたい。

　●**クラス分けについて**

古式サバニが年々増えるのもいいけど、このサバニレースに参加艇が増えるというのも大きな目標にしています。故に一つのクラスだけにする予定はありません。

古式になるべく近づこうというのが、最初の理念ですが、アウトリガーが付いているからサバニではないということもないわけで、ニーサギとは昔からある言い方で、船に荷を下げているという意味。

風上側に重りを付けバランスを取ったりします。アウトリガーが付いている走り方、使い方があると思いますので、これも大事にしていきたいと思います。

奄美の出身者でベテランの参加者からの意見。

「そろそろ古式の技術を継承し、今のサバニの形態を自分たちの範囲で追及する必要があると思っている。それは、自身が単独で10～12時間、サバニを漕いで遠征したとき、古式では絶対無理だと実感した経験談や、昔、奄美からヤンバルまでサバニで物資を運んでいた際は船団を組んでいた。また

2艇を繋いで物資を運ぶなど『組船』のことを考えると、ある意味、アウトリガーに近いものだと思う。長い航程を行く場合、荒天だと古式では絶対危険である。自分は長い間古式でやってきたけど、これからは単独で旅に出るために、アウトリガーを付けて速く走るトレーニングをしている」という話を披露されました。

アウトリガーというと西洋から来たもので、沖縄古来のものではない印象を受けるが、ニーサギという言葉が表す通り、実行委員会としても、このクラスは必要であると思います。

古式にこだわりたい人は古式でいくのもいいし、ニーサギで行きたい人はニーサギで行けばいいという考え方で、いいと思います。アウトリガーを、補助輪と考えるのはもうやめましょう。

参加者より、「ニーサギを残してほしい。やっぱり安全に単独で行こうと思ったら絶対に必要なものです。何故かと言うと、波が入った時に汲みださないといけない、交代もしないといけない、それを古式の方でやっていたらすごく大変です。

スポーツとしてレースをするということで、サバニクラスとニーサギクラス、更にどうしても大きさによってスピードが違ってくるので、サバニクラスの中で何メートルまでのクラス、その先のクラスといったすみ分けが出来ないかといった提案をさせていただきたい」

また、参加者より、ニーサギクラスは絶対残してほしいとの意見多数ありました。

**実行委員会**：垂線長が長い方が速いと思いますが、長さによるカテゴリを考えないといけないとは思っています。実行員会として何メートルから何メートルといったクラスを２つなり３つなり分けた方がいいかと真剣に考えさせて頂きます。

※今回はクラス分けを明記しません。もう少し熟考したいと思います。

**４）マスト共同購入について**

関東地域にいる「たうてぃ」チームと、「東京海洋大」チームに、切り出しと運び出しを手伝っていただき富士山のふもとの富士ヒノキを沖縄に送り出しまあいた。

※今回はサイズ不足等があった為、販売は中止とさせて頂きました。

**５）レース時の天候について**

参加者から、今年のレースは雷雨の予報が出ていましたが、その場合大会はどういう対応をしますか？

中止の場合もあるのでしょうか？との意見が出ました。

当日朝に気象予報士の方の判断の下、会議を行い決定しています。前日の艇長会議などで常に連絡が取れるようにして頂き、急な連絡事項が起きた場合、必ず連絡が付くように、連絡が付かないということが絶対ないようにお願いしたいと思います。

**６）フィニッシュ地点の目印について**

沖から見ると陸と重なって全く見えなくなってしまうので、もっと大きな旗を付けるなどの対策を考えていますが、伴走艇の携帯GPSポジションを使って確認していただくのが一番確実だと思っています。

現在、海上保安庁と折衝中です。決まり次第お知らせします。

　**７）フィニッシュ後の港内帆走について**

ウミソラ公園の海を見て左側に赤い設標（せっぴょう）が一本あるので、せめてそこからビーチまでの間をセーリングさせてくださいという交渉を、横浜や大阪湾の事例を出しながら海上保安庁と交渉していきたいと思います。「ウミソラ公園」の前を帆走していただいて、友達や家族の方に出迎えて頂きたい、というのが今までの夢だったので、皆様に楽しんで頂けるようにしたいと思っています。

**８）メディアに関して**

参加者より、普及や振興が目的ですので、もう少し県内の新聞など紙媒体への露出を望みます。

「サバニレースあります」という写真とか、記事などを座間味村通信の方のレースの紹介をお願いしたい。⇒以前のように記者クラブの方を巻き込み、記事にしていただくようにお願いしていきます。

琉球新報、沖縄タイムスなど、地元のメディアと懇意にしている方がいたら、ご紹介ください。

少しでも、皆さんが話題に上がって、楽しみ喜んでいただける様、努力するようにします。

●**スタート前の拝み（うがみ）について**

参加者より、スタート前の拝み（うがみ）を皆でやりたいと思います。航海の無事を祈って、

拝み（うがみ）をしてから渡るということが大事。これからも絶対にやめないでほしい。

参加者皆さんも時間を周知して参加して頂きたいです。

**９）アビームコンサルティング社：矢野さま　ご挨拶**

「みなさんこんばんは。アビームコンサルティングの矢野でございます。いつもチーム「かりゆし」の山田がお世話になっております。今年の6月に弊社のマーケティングと社会貢献の部署を統括することになりました。今年の第17回大会も観戦させていただきました。大変素晴らしいレースを運営されているということで感銘を受けまして是非とも応援を続けさせていただきたいと思っています。

今までこういった形で意見交換会に私どもが参加することは無かったと聞いて、今年は是非参加させて下さいということで参加をさせていただきました。

私は船のことはよくわかりませんし、実行面に関しましては実行委員の皆様に連絡するしかないのですが、最後の方でお話が出ました広報面に関しましては私どもも出来るだけ協力をさせていただいて、このサバニレースがより多くの方に知って頂けるように、ご協力をさせていただきたいと思っています。是非ともよろしくお願い致します。

簡単ですが以上となります、どうもありがとうございました。」